

塩 尻 市
令和2年度 人・農地プランアンケート
集計及び地図作成業務委託
アンケート調査

報 告 書
(地区別版)

令和2年11月

<もくじ>

I. アンケート調査の概要.....	1
1. 調査の目的と趣旨.....	1
2. 調査の実施方法.....	1
II. 調査結果.....	4
<問1 現在、農地を主に耕作している方をお答えください。>	4
<問2 あなたには、将来農業を行う後継者がいますか。>	6
<問3 問2で1に回答をしていただいた方の後継者は誰になるでしょうか。>	7
<問4 あなた自身の農業経営(個人・法人・集落営農)は、地域の中でどういう位置付けだと思えますか。>	8
<問5 現在、栽培されている主な作物はどれでしょうか。>	9
<問6 今後の農地の管理についてお聞きします。>	10
<問7 貸し付ける又は売り渡しが可能な時期はいつ頃ですか。>	11
<問8 貸し付けたい又は売り渡したい農地の地番等がわかる方はご記入ください。>12	
<問9 あなたの集落・地域には、現在、今後の地域農業の中心となる農業者(個人・法人・集落営農)がいますか。>	13
<問10 問9で「いる」とお答えになった方に伺います。あなたの集落・地域の今後の農業の中心となる農業者(個人・法人・集落営農)のお名前を記入してください。(3名まで)>	14
<問11 あなたの地域の農業(人・農地)は10年後どのようになっていると思えますか。>	15

I. アンケート調査の概要

1. 調査の目的と趣旨

平成24年度（2012年度）から国（農林水産省）が事業をスタートさせた「人・農地プラン」は地域の高齢化や農業の担い手不足が心配される中、5年後、10年後までに、どのように農地を使って農業を進めていくのかを地域や集落の話し合いに基づき取りまとめるプラン（計画）である。

令和元年度において、国の事業見直しの中でプランを真に地域の話し合いに基づくものにする実質化の観点から、アンケートや地図を活用し、今後の農地利用を担う経営体へ農地の集約化に関する将来方針の作成につなげていくことが肝要であると示されている。

本報告書は、農業経営内容、地域の農業の状況、意見などに関するアンケート調査結果の整理・とりまとめを目的として作成したものである。

2. 調査の実施方法

○調査の対象

- ・農家等（農業従事者）

○調査票の配布・回収方法

- 郵送・電子データによる配布・回収

○調査期間

	実施年月
調査票の設計	令和元年 11月 ~ 12月
調査票の印刷・発送準備	令和2年 1月 ~ 2月
調査票の配布・回収	令和2年 2月 ~ 3月
回答結果の集計・とりまとめ	令和2年 7月 ~ 令和2年 11月

○回収結果

塩尻市全体

	票数・率
配布票数 (a)	4,478 票
有効回収票数 (b)	2,179 票
有効回収率 (b/a)	48.7 %

【1】塩尻・大門地区

	票数・率
配布票数 (a)	937 票
有効回収票数 (b)	438 票
有効回収率 (b/a)	46.7 %

【2】北小野地区

	票数・率
配布票数 (a)	362 票
有効回収票数 (b)	203 票
有効回収率 (b/a)	56.1 %

【3】広丘地区

	票数・率
配布票数 (a)	849 票
有効回収票数 (b)	417 票
有効回収率 (b/a)	49.1 %

【4】片丘地区

	票数・率
配布票数 (a)	690 票
有効回収票数 (b)	334 票
有効回収率 (b/a)	48.4 %

【5】洗馬地区

	票数・率
配布票数 (a)	1,121 票
有効回収票数 (b)	576 票
有効回収率 (b/a)	51.4 %

【6】宗賀・檜川地区

	票数・率
配布票数 (a)	1,022 票
有効回収票数 (b)	481 票
有効回収率 (b/a)	47.1 %

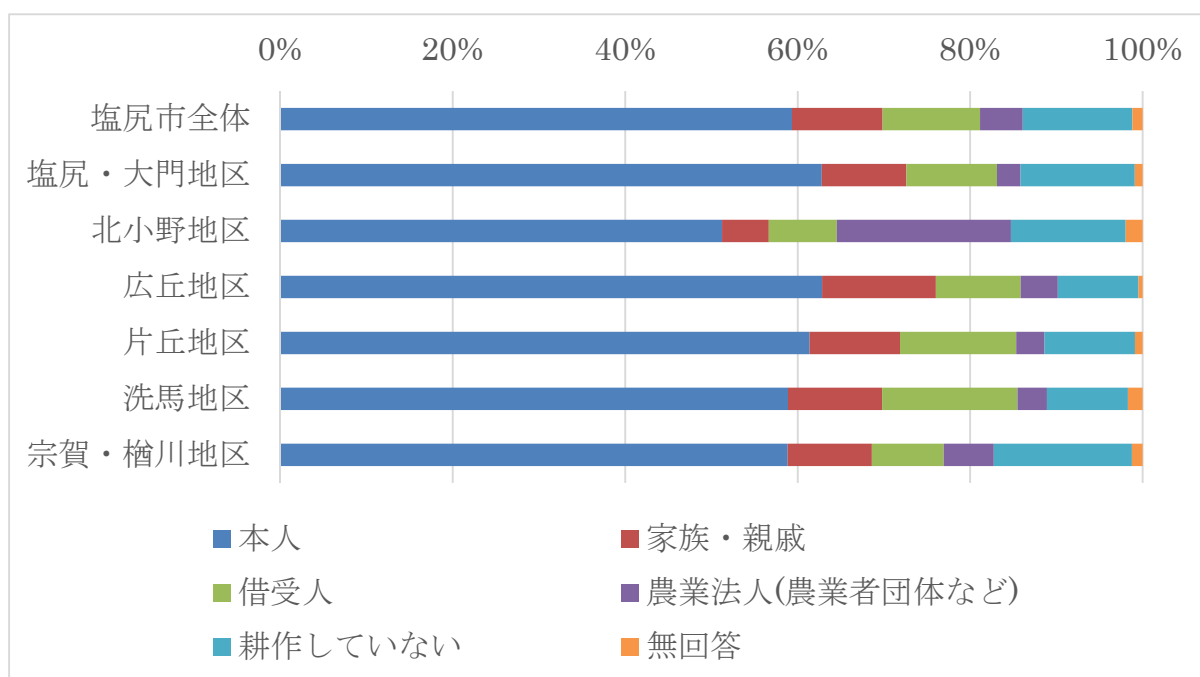
※調査票の対象者は複数地区に該当する場合もあるため、各地区の配布票数の合計は塩尻市全体の配布票数と一致しない。

○その他

本文中のグラフ内数値は、構成比 (%) を表している。

Ⅱ. 調査結果

<問1 現在、農地を主に耕作している方をお答えください。>

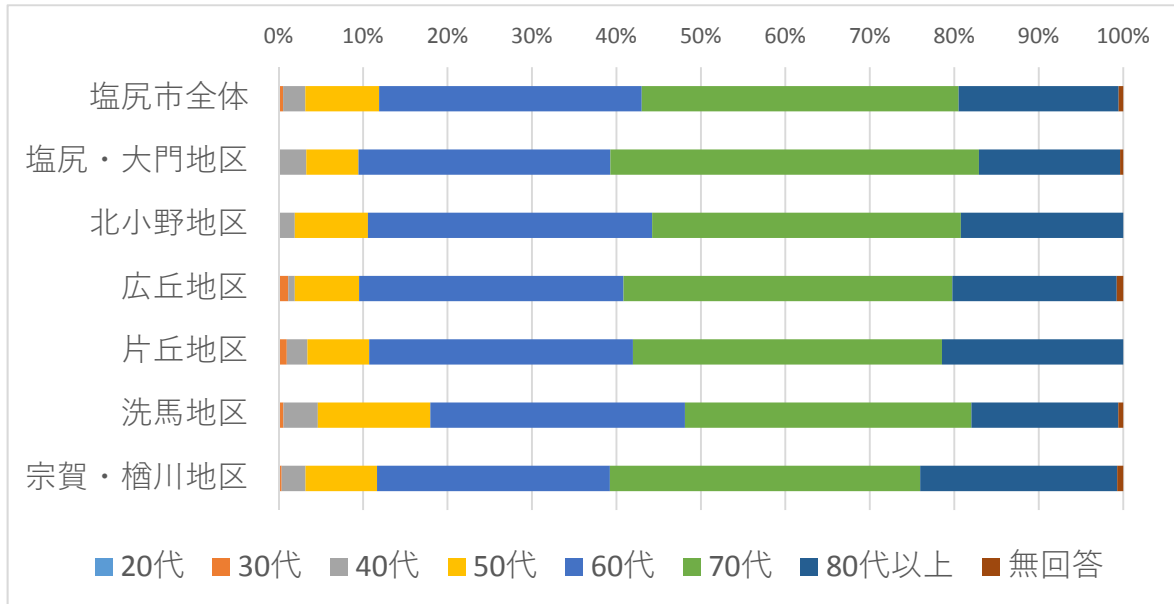


耕作者については、全体的に「本人」の割合が 50%以上を占め、一番多い結果となった。これに次いで、「家族・親戚」「借受人」が多い傾向が見られる。北小野地区については、「農業法人(農業者団体など)」が他地区と比較して多い。

問1 年齢について

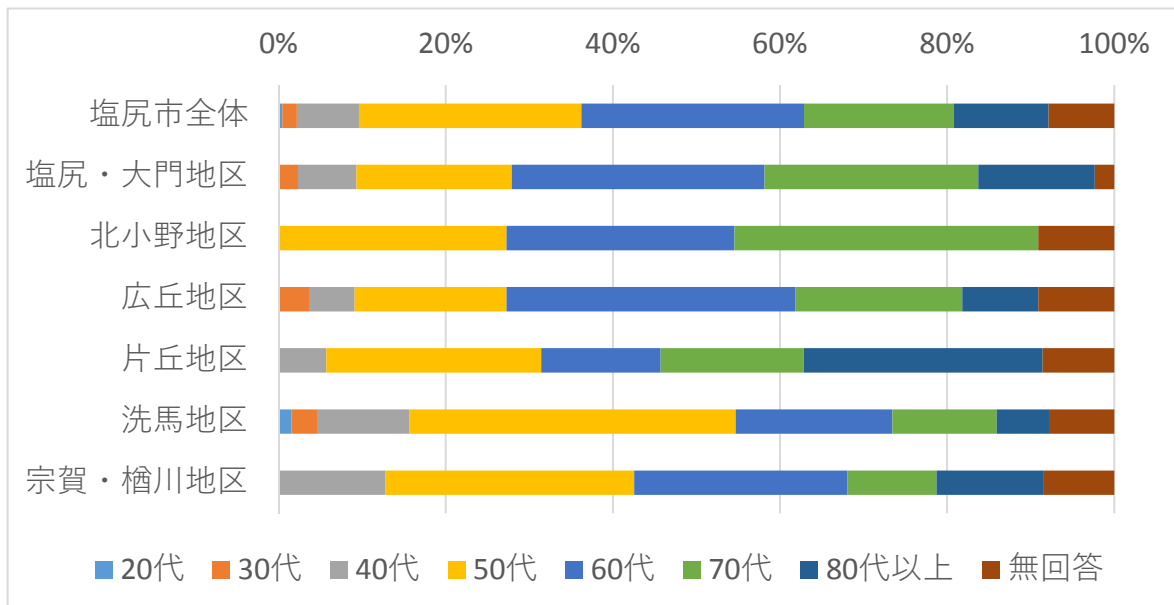
「本人」、「家族・親戚」、「借受人」についての年齢の割合は次のとおりである。

本人



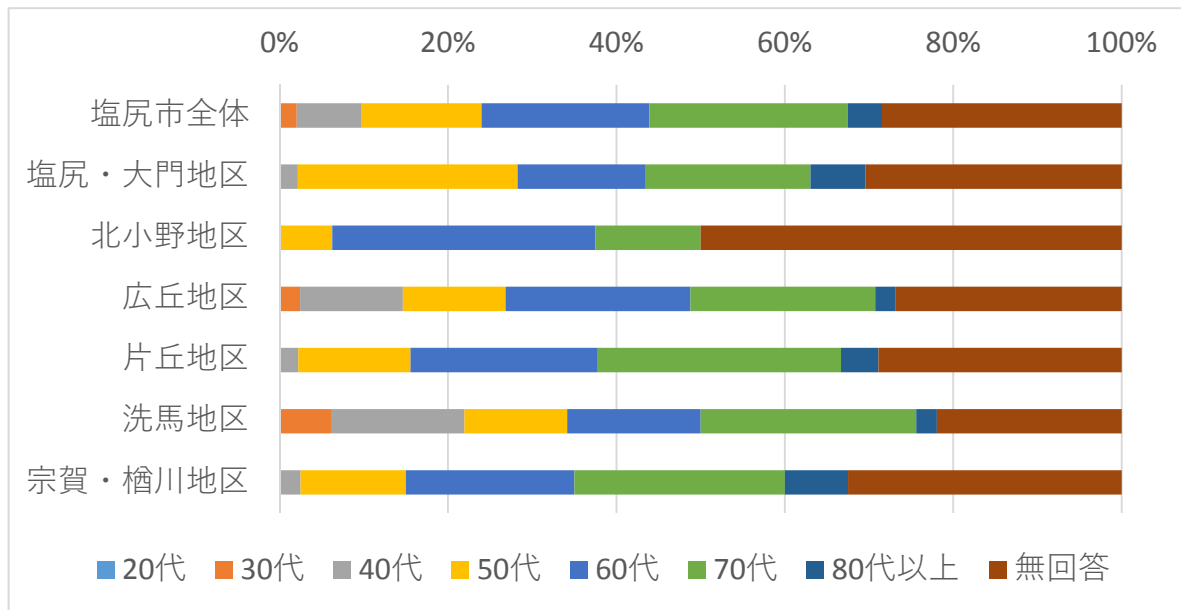
主に本人が耕作している場合の年齢層は、60代～70代が多い傾向となった。後継者に継承しない場合、10年後には、ほぼ高齢者層に移行していくことが推測される。

家族・親戚



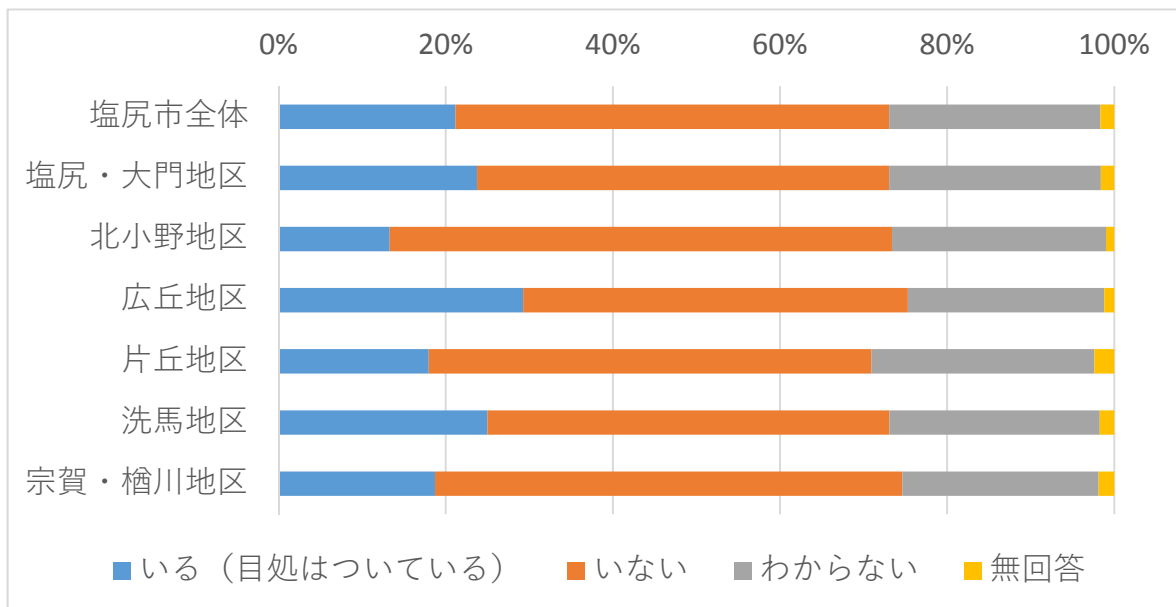
主に家族・親戚が耕作している場合の年齢層は、50代～60代が多い傾向となった。

借受人



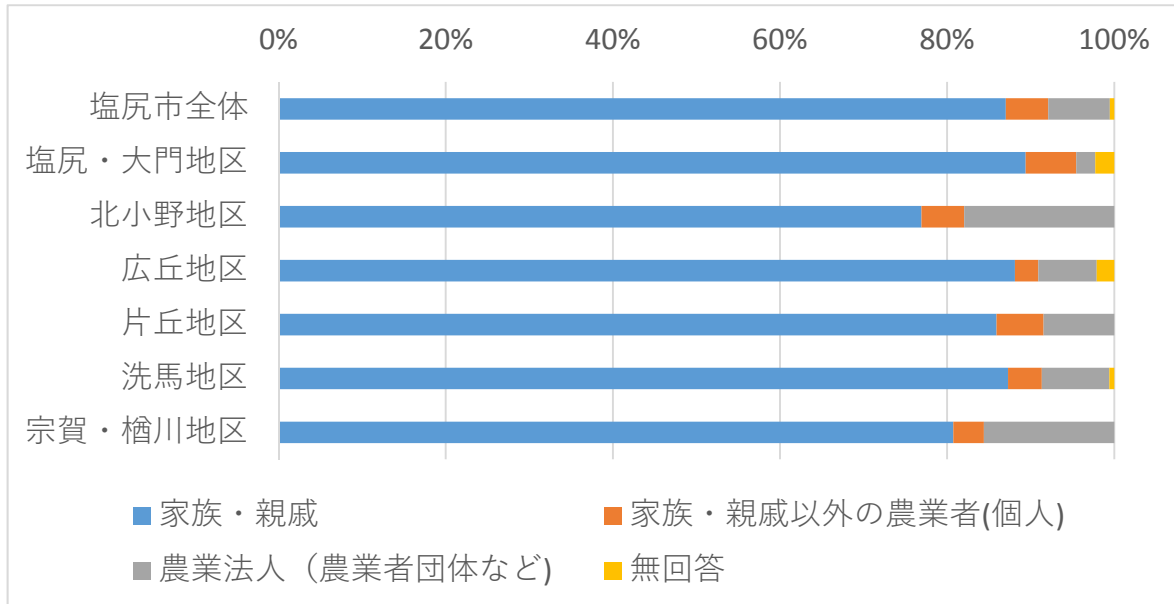
主に借受人が耕作している場合の年齢層は、全体的に50代～70代が多い傾向となった。

<問2 あなたには、将来農業を行う後継者がいますか。>



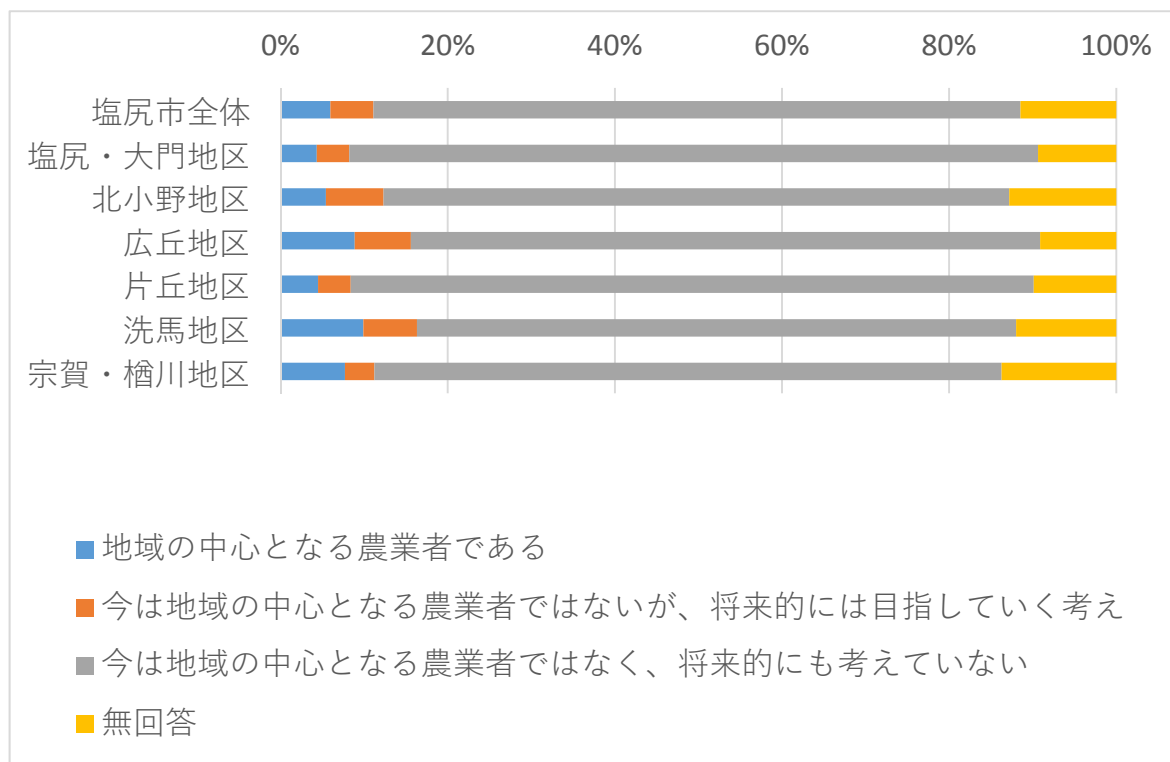
後継者の有無については、「いない」が最も多い。また、これに次いで、「わからない」が多い結果となっており、後継者不足の傾向が見られる。なお、後継者が「いる」と回答した地区は、広丘地区が最も多く、次いで洗馬地区の順となった。

＜問3 問2で1に回答をしていただいた方の後継者は誰になるでしょうか。＞



将来の後継者は「家族・親戚」が最も多い。これに次いで「農業法人（農業者団体など）」「家族・親戚以外の農業者(個人)」の割合が多い傾向となっている。

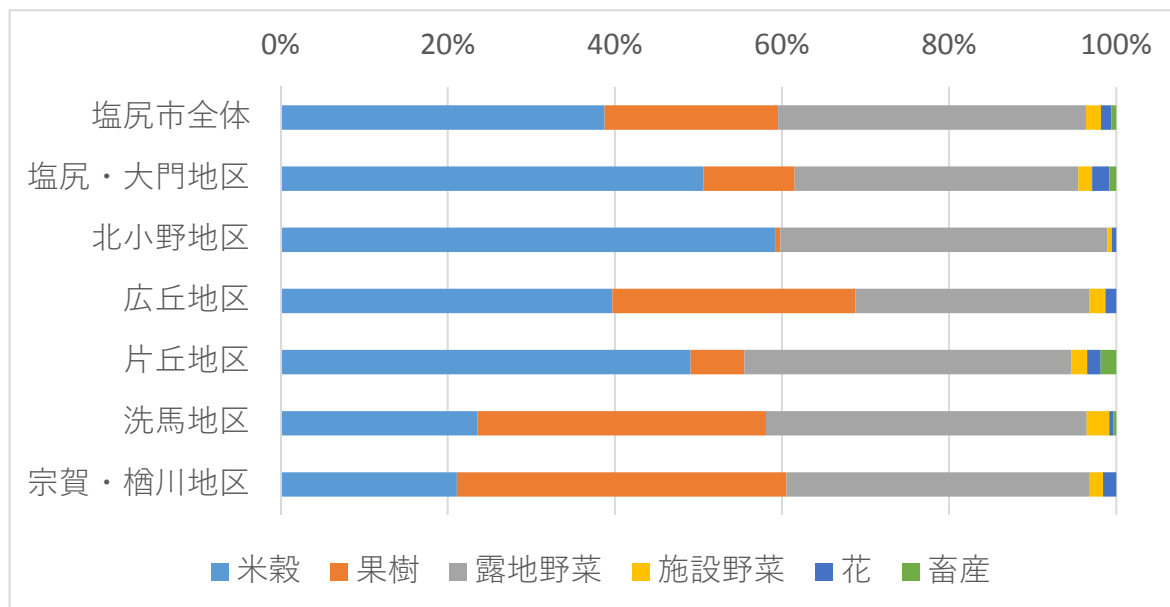
＜問4 あなた自身の農業経営(個人・法人・集落営農)は、地域の中でどういう位置付けだと思えますか。＞



アンケート対象者自身の農業経営の位置付けは「今は地域の中心となる農業者ではなく、将来的にも考えていない」が最も多い傾向となった。

広丘地区と洗馬地区については、「地域の中心となる農業者である」、「今は地域の中心となる農業者ではないが、将来的には目指していく考え」と回答した割合が他地区と比較して若干多い結果となった。

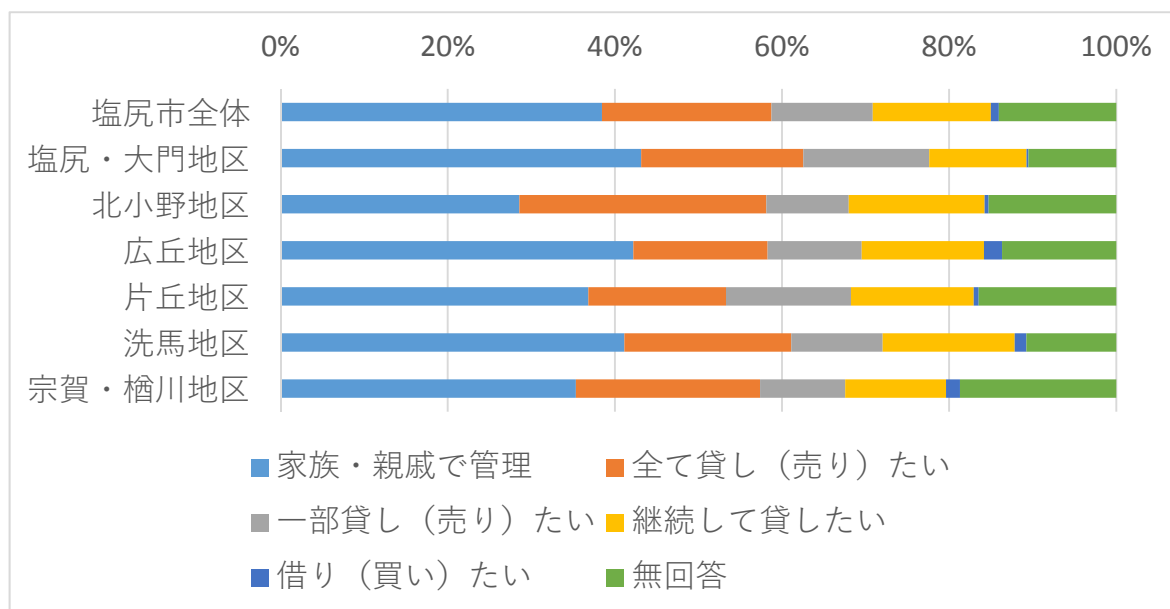
＜ 問5 現在、栽培されている主な作物はどれでしょうか。＞



各作物の回答の割合が多い地区の上位3地区は以下のとおりである。

- ・ 米穀
 - 1位：北小野地区、2位：塩尻・大門地区、3位：片丘地区
- ・ 果樹
 - 1位：宗賀・檜川地区、2位：広丘地区、3位洗馬地区
- ・ 露地野菜
 - 1位：北小野地区、2位：宗賀・檜川地区、3位：洗馬地区
- ・ 施設野菜
 - 1位：洗馬地区、2位：広丘地区、3位宗賀・檜川地区
- ・ 花
 - 1位：塩尻・大門地区、2位：宗賀・檜川地区、3位：片丘地区
- ・ 畜産
 - 1位：片丘地区、2位：塩尻・大門地区、3位：洗馬地区

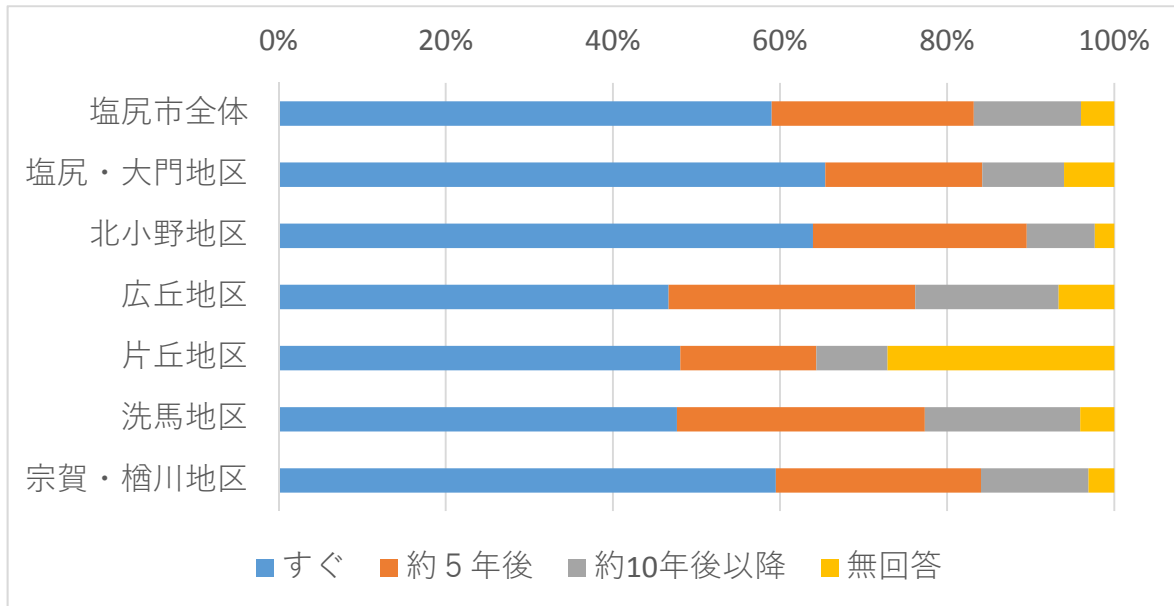
＜問6 今後の農地の管理についてお聞きします。＞



今後の農地の管理については、全体的に「家族・親戚で管理」が最も多い傾向となった。

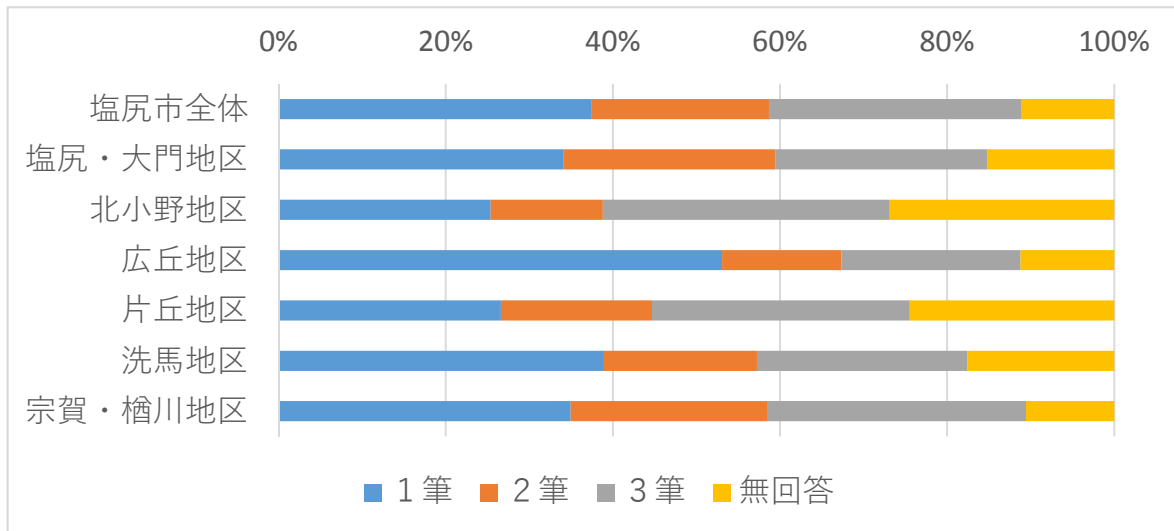
次いで「全て貸し(売り)たい」「継続して貸したい」「一部貸し(売り)たい」の回答が多く、「借り(買い)たい」は少ない結果となった。

＜問7 貸し付ける又は売り渡しが可能な時期はいつ頃ですか。＞

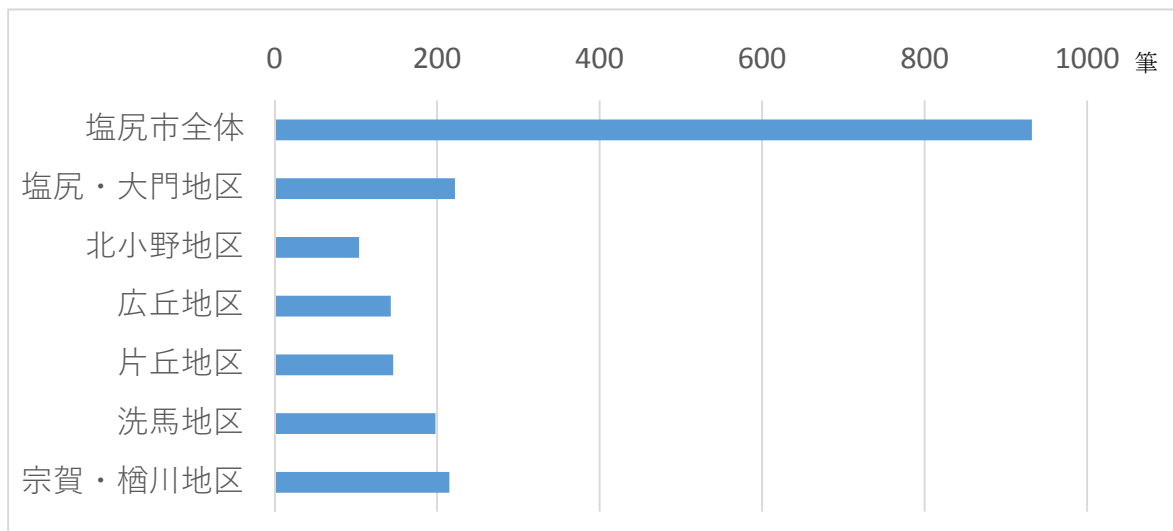


貸し付ける又は売り渡しが可能な時期として「すぐ」が半数近くを占め、最も多い回答となった。次いで、「約5年後」、「約10年後以降」の順となる傾向であった。

＜問8 貸し付けたい又は売り渡したい農地の地番等がわかる方はご記入ください。＞



貸し付けたい又は売り渡したい農地の主な地番（筆）として、「1筆」を挙げた方が最も多く、次いで、「3筆」、「2筆」の割合が多くなる傾向となっている。

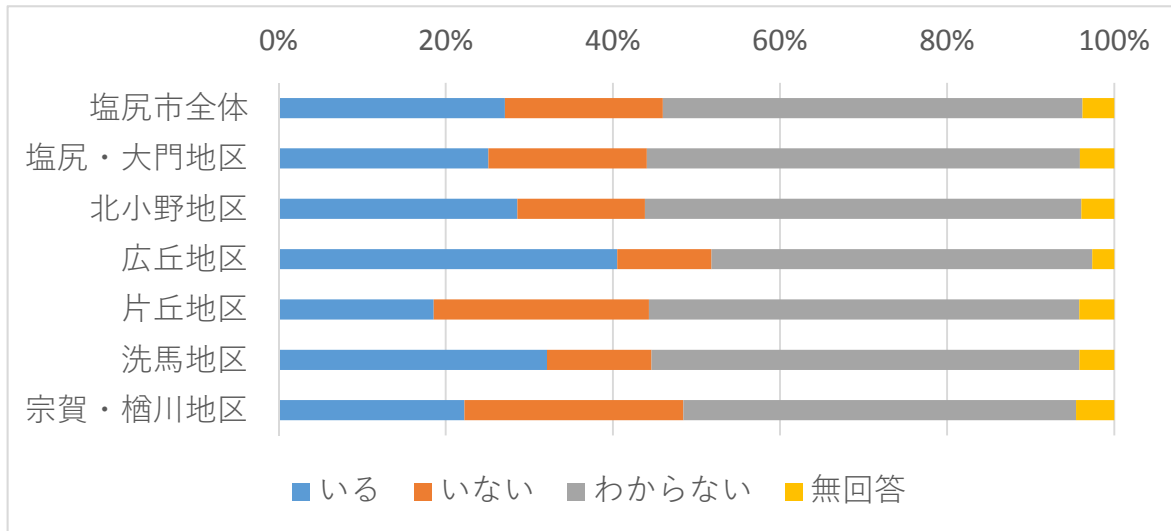


※筆数は同一地番の重複を含む

また、筆数では塩尻・大門地区が最も多い。

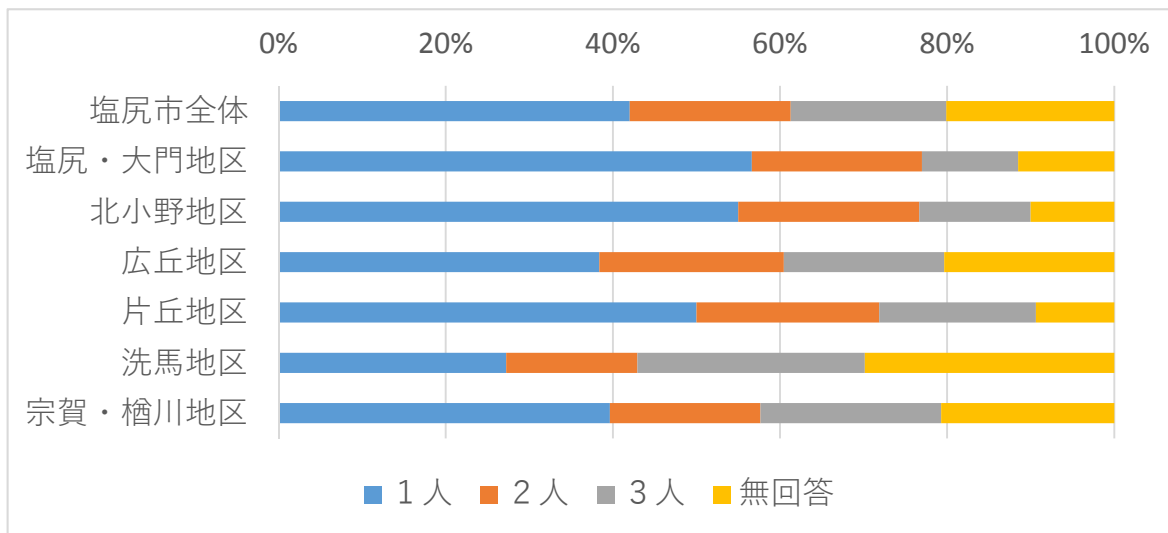
これに次いで宗賀・檜川地区、洗馬地区、片丘地区、広丘地区、北小野地区の順となっている。

＜問9 あなたの集落・地域には、現在、今後の地域農業の中心となる農業者（個人・法人・集落営農）がいますか。＞

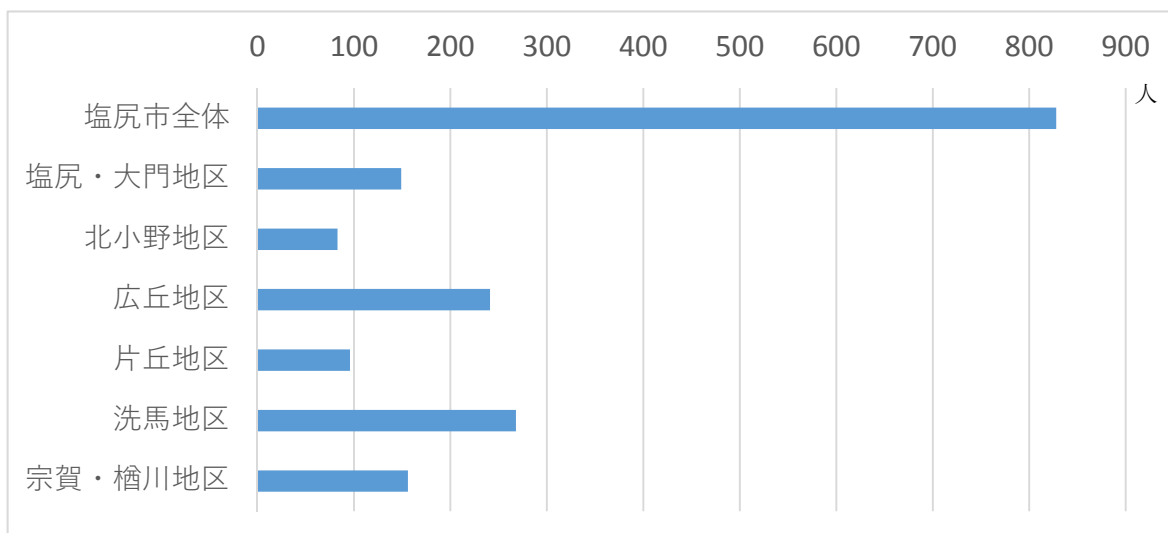


アンケート回答者の集落・地域における今後の地域農業の中心となる農業者（個人・法人・集落営農）の有無については「わからない」が半数を占める割合が多い。次いで「いる」、「いない」の順となる傾向が見られる。

＜問 10 問9で「いる」とお答えになった方に伺います。あなたの集落・地域の今後の農業の中心となる農業者(個人・法人・集落営農)のお名前を記入してください。(3名まで)＞



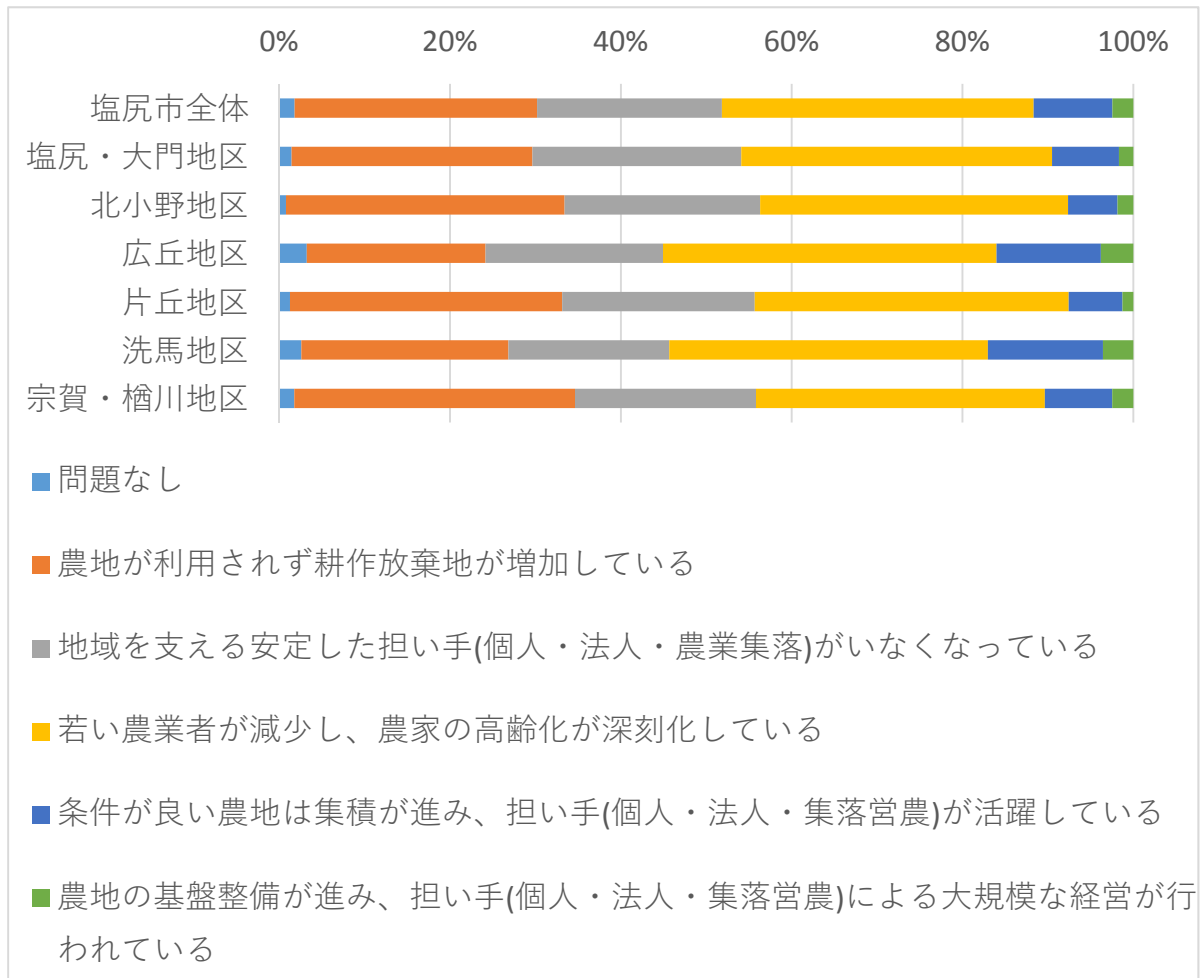
全体的に集落・地域の今後の農業の中心となる農業者として1人の名前を挙げた方が最も多く、次いで2人、3人の順となる傾向が見られる。



※人数は同一人物の重複を含む

また、今後の農業の中心となる農業者として回答があった人数では洗馬地区が最も多い。これに次いで広丘地区、宗賀・檜川地区、塩尻・大門地区、片丘地区、北小野地区の順となっている。

＜問 11 あなたの地域の農業(人・農地)は 10 年後どのようなになっていると思いますか。＞



塩尻市全体の傾向としては、地域の農業の 10 年後について、「農家の高齢化の深刻化」、「耕作放棄地の増加」など、地域の課題を示す意見が多く上がっている。各回答の割合が多い地区の上位 3 地区は以下のとおりである。

- ・ 問題なし
1 位：広丘地区、2 位：洗馬地区、3 位：宗賀・檜川地区
- ・ 農地が利用されず耕作放棄地が増加している
1 位：宗賀・檜川地区、2 位：北小野地区、3 位：片丘地区
- ・ 地域を支える安定した担い手(個人・法人・農業集落)がいなくなっている
1 位：広丘地区、2 位：北小野地区、3 位：片丘地区

- ・若い農業者が減少し、農家の高齢化が深刻化している
1位：広丘地区、2位：洗馬地区、3位：片丘地区
- ・条件が良い農地は集積が進み、担い手(個人・法人・集落営農)が活躍している
1位：洗馬地区、2位：広丘地区、3位：宗賀・檜川地区
- ・農地の基盤整備が進み、担い手(個人・法人・集落営農)による大規模な経営が行われている
1位：広丘地区、2位：洗馬地区、3位：宗賀・檜川地区

以上

塩 尻 市
令和2年度 人・農地プランアンケート
集計及び地図作成業務委託

令和2年11月

アンケート調査 報告書

編集 株式会社パスコ